

南信州広域連合議会
全 員 協 議 会

平成28年11月28日

南信州広域連合事務局

南信州広域連合議会 全員協議会

日 時	平成28年11月28日（月）	午後2時50分～午後3時56分
場 所	飯田広域消防本部 3階会議室	
出席者	熊谷議員、下平副議長、川野議員、森谷議員、小澤議員、林（節）議員、板倉議員、松村議員、村松議員、石原議員、川上議員、高坂議員、勝野（公）議員、勝野（猶）議員、平松議員、福沢議員、宮下議員、本島議員、坂本議員、松井議員、関議員、湯澤議員、湊議員、新井議員、清水（勇）議員、吉川議員、永井議員、木下（容）議員、後藤議員、木下（克）議長、林（幸）議員、清水（可）議員、井坪議員	
説明員	14市町村長、佐藤副管理者、加藤監査委員、市瀬監査委員、玉置監査委員事務局長、清水会計管理者、渡邊事務局長、塚平事務局次長、関島消防長、三石消防次長兼飯田消防署長、有賀総務課長、大蔵警防課長、木下警防課専門幹、山口予防課長、細田伊賀良消防署長、高橋高森消防署長、松川阿南消防署長、田見飯田環境センター事務長	
事務局	北原書記長、前沢庶務係、秦野次長補佐兼広域振興係長、下島介護保険係長 飯田環境センター 北原事務長補佐兼庶務係長兼新焼却場施設整備専門主査、窪田管理係長	
飯田広域消防	下平総務課庶務係長、片桐総務課庶務係	
下伊那郡町村会	牛久保事務局長	

1. 開 会
2. 議長あいさつ
3. 理事者あいさつ
4. 報告・協議事項

No	項 目 名	資料	頁
1	検討委員会報告 （1）総務・文教・消防検討委員会（吉川委員長） （2）環境・福祉・医療検討委員会（新井委員長） （3）建設・産業・経済検討委員会（永井委員長）		3

No	項 目 名	資料	頁
2	リニア中央新幹線計画について …資料による説明（渡邊事務局長）	2	8
3	新たな産業振興の拠点整備について …資料による説明（渡邊事務局長）	3	9
4	南信州広域連合総合戦略について …資料による説明（渡邊事務局長）	4	10
5	南信州広域連合事務事業評価について …資料による説明（塚平事務局次長）	5	14
6	マーケティング研究会の報告について …資料による説明（塚平事務局次長）	6	17
7	南信州在宅医療・介護連携推進協議会について …資料による説明（塚平事務局次長）	7	18
8	看護師等確保対策について …資料による説明（塚平事務局次長）	8	21
9	飯田環境センターの事業について …資料による説明（田見飯田環境センター事務長）	9	23
10	飯田広域消防の事業について …資料による説明（三石消防次長兼飯田消防署長）	10	24

5. 閉 会

1. 開 会

分

午後 2 時 5 0

(木下 (克) 議長) 休憩を閉じ、会議を再開いたします。

それでは、ただ今から全員協議会を開催いたします。

2. 議長あいさつ

(木下 (克) 議長) 本会議に引き続いてでございますので、議長あいさつは割愛させていただきます。

3. 理事者あいさつ

(木下 (克) 議長) ここで、広域連合長のあいさつを願うことといたします。

(牧野広域連合長) 辞退とします。

4. 報告・協議事項

(1) 検討委員会報告

1. 総務・文教・消防検討委員会

(木下 (克) 議長) それでは、4 番の協議・報告事項に入らせていただきます。

はじめに、「検討委員会報告」を議題といたします。

まず、総務・文教・消防検討委員会の報告を求めます。

吉川秋利君。

(吉川委員長) 総務・文教・消防検討委員会の協議状況について報告いたします。

1 1 月 2 4 日に当委員会を開催し、①「産業振興の拠点」施設整備について② 2 8 年度中間事務事業評価と 2 9 年度予算編成について③南信州広域連合総合戦略についての 3 項目について事務局から説明を受けました。

「産業振興の拠点」施設整備については本会議でも説明がありましたが、委員会においても産業振興の新しい拠点整備事業の 2 期～4 期に必要な事業総額 1 5 億 6, 3 0 0 万円の内、第 2 期分として航空機システム関係施設整備に必要な 8 億円について説明を受けました。

2 期工事としては、体育館のホール化改修 (2 階)、公的試験場整備 (1 階)、関連す

る敷地内導線の整備が想定されております。

補助率2分の1の地方創生拠点整備交付金を活用することにしたが、広域連合が申請主体になることができないため、14市町村の連携事業としたい。このため各市町村がそれぞれに申請することになり、飯田市は1億2,400万円、13町村はそれぞれ5,200万円の事業費として申請する。

各町村の実質的な起債償還額は、南信州・飯田産業センターの経費負担割合の平均値を用いて按分・算出する。算出した金額と実際の起債償還に対する差額については、広域連合が特定財源として町村へ充当する。町村の規模を勘案した償還を行うことにするため、実際にはばらつきが生じる。

なお、この申請による決定は1月末と見込まれ、場合によっては2月に補正を行うことも想定される。

広域連合議会で議決された後、構成市町村議会で補正予算をお願いしたい。この方式の詳細については、要望があれば町村へ出向いて説明を行うこととする。

次に、28年度中間事務事業評価と29年度予算編成については、28年度当委員会に関する28件の施策と広域消防に関する8件の事業について、中間評価としての進捗状況と成果について報告がありました。

特に、「広域連合の区域における広域行政の推進」という施策の目標としての「広域連合事務局の組織のあり方検討」については、力を入れたいという意思表示がありました。

今年度の目標にはないが、報告として大学入試センター試験が来年1月14・15日に飯田高校を会場として行われ、信大から試験官が来て地域の先生がサポートすることになる。

消防について、最近大きな火災があったが、消防が駆けつけても水の便が良くないことがある。企業や公共施設の防火水槽を使用するなど協力体制を取られたいという要望があり、消防団との連携を密にしていくとの答弁もありました。

南信州広域連合総合戦略については、この総合戦略は長野県が総額10億円余の交付金事業を広域連合で実施するために策定した。広域連合構成市町村との役割分担と協働によって、重点的に推進すべきプロジェクトの体系として策定するという趣旨のもと、平成29年度から32年度までの4年間とし、信州大学との共同研究期間中とする。

この中で、長期的な将来展望として、圏域全体の人口ビジョンとしてまとめたが、構成市町村の積み上げとしたものである。

基本的な方向や具体的な施策と目標を定めました。

信州大学航空機システム共同研究講座に関して、①学位を取得した学生10人②企業との共同研究件数4件③実験施設利用10件という目標値を定めたということです。

今回の取組は、信州大学との航空機システムに係る共同研究講座を通じて行うものであり、信州大学航空機システム共同研究講座コンソーシアムに諮りながら取組の進捗を図るとのことです。

28日の定例会、本日、意見なければまとめていきたいということでありました。

以上、報告とさせていただきます。

(木下(克)議長) 説明が終わりました。

ご質疑はございませんか。

(「なし」との声あり)

(木下(克)議長) なければ、本件については聞き置くことといたします。

2. 環境・福祉・医療検討委員会の報告

(木下(克)議長) 次に、環境・福祉・医療検討委員会の報告を求めます。

新井信一郎君。

(新井委員長) 環境・福祉・医療検討委員会の協議状況について報告いたします。

11月21日に当委員会を開催し、まずはじめに、議員辞職のため空席となっておりました副委員長の選出を行い、売木村の松村尚重議員が選出されました。

続いて、(1)「産業振興の拠点」施設整備について、(2)28年度中間事務事業評価と29年度予算編成について、(3)在宅医療・介護連携推進協議会について、(4)看護師等確保に対する対策等について、(5)飯田環境センターの事業についての5項目について事務局から説明を受けました。

都合により、(2)28年度中間事務事業評価と29年度予算編成についてから説明を受けました。主な説明は、調査研究プロジェクトのマーケティング手法による地域戦略プロジェクトについて、各市町村若手職員が4月から月1回研究会を実施。11月22日の連合会議で市町村長にプレゼンを行い、29年度に4つの項目について事業化を目指す。

また、いいむす21の推進について、町村へ取組を働きかけ、年度内の加入を目指したい。

そして、阿南学園の運営管理では、平成30年の改築計画に対し、国庫補助金が非常

に厳しい、29年度・30年度は県や国へ働きかけをしたいとのことであります。

次に、(1)「産業振興の拠点」施設整備についての説明は、先ほどの委員会と同様でありましたが、委員から、「町村の起債額を調整できないか」との意見が出されましたが、内閣府から、「連携事業は合理的な理由がないと差がつけられない」と指導をもらっているとのことでした。

次に、(3)在宅医療・介護連携推進協議会については、平成30年度4月までに市町村が取り組むことの総括についてと、29年度に予算措置が必要な項目について説明を受けました。委員から「ism-Linkは訪問看護ステーション等への波及が望ましいが現状はどうか」との質疑がなされ、回答として、「ism-Linkは、まず登録患者を増やすことが先決で、その後に在宅も支援できるようなシステムへ移行していきたい。次回サーバーの更新に係る費用負担についての方向性も検討しなければいけない」との回答でありました。

また、「訪問診療・訪問介護ステーションの引き上げ等が進む中、行政としての体制整備はいかがか」との質疑も出され、医療・介護の人的資源の確保についても検討しているとのことであります。

要望として、「病院から在宅への移行後、民間で採算が取れなくなった場合は行政がきちんと検討すべきである」との要望が出されました。

次に、(4)看護師等確保に対する対策については、以前、飯田医師会が准看護学校開設を計画していたが、人口が減少傾向にあることなどから一たん検討を取りやめ、広域連合に対して奨学金などの新たな制度の創設が要望され、広域連合会議で検討を重ねた奨学金の概要について説明を受けました。

そして、(5)飯田環境センターの事業については、稲葉クリーンセンター整備事業に係る平成28年度循環型社会形成推進交付金の追加内示があり、28年度は要望額の94%であったため、不足分は起債の対応とすること。平成29年度分が前倒し内示となっているため、全額繰越としたいとの説明を受けました。

また、現在の稲葉クリーンセンター整備事業の進捗状況や視察の状況についても説明を受け、視察については情報発信として可能な限り対応したいとの説明でありました。

以上、報告とさせていただきます。

(木下(克)議長) 説明が終わりました。

ご質疑はございませんか。よろしいですか。

(「なし」との声あり)

(木下(克)議長) なければ、本件については聞き置くことといたします。

3. 建設・産業・経済検討委員会の報告

(木下(克)議長) 次に建設・産業・経済検討委員会の報告を求めます。

永井一英君。

(永井委員長) 建設・産業・経済検討委員会の協議状況について報告をいたします。

11月21日に当委員会を開催し、①「産業振興の拠点」施設整備について②28年度中間事務事業評価と29年度予算編成について③リニア中央新幹線整備を地域振興に生かす伊那谷自治体会議幹事会についての3項目について、事務局から説明を受けました。

「産業振興の拠点」施設整備についての説明は、先に報告のあった委員会と同様でございました。委員から、「町村が申請する5,200万円に行き着くまでの道筋が見えない」、「構成市町村が補正予算を審議するときに、議会及び住民が理解できる資料を用意してほしい」と要望が出されました。

次に、28年度中間事務事業評価と29年度予算編成については、当委員会に関係する事務事業について説明を受けました。

定住に結びつける1つの条件として、地域情報化について検討している内容の説明があり、「光回線」が敷設されていない町村への対応を県の情報政策課と進めているとの説明を受けました。

観光事業については、基金の果実で事業を実施しているが、財源が厳しくなってきており、広域での観光事業をどのようにしていくかが今後の検討課題であるとの説明を受けました。

最後に、リニア中央新幹線整備を地域振興に生かす伊那谷自治体会議幹事会については、リニアプロジェクトの進め方についてまだまとまりきっていない。プロジェクトは3つの構成を想定している。知事の発案で有識者会議を設置する。まだ上下伊那の区別や市町村でやること等まとまっていないが、観光は1つのテーマとして取り組むことが確認されているとの説明を受けました。

以上、報告とさせていただきます。

(木下(克)議長) 説明が終わりました。

ご質疑はございませんか。

（「なし」の声あり）

（木下（克）議長） なければ、本件については聞き置くことといたします。

（２）リニア中央線新幹線計画について

（木下（克）議長） 次に「リニア中央新幹線計画について」を議題といたします。

事務局の説明を求めます。

渡邊事務局長。

（渡邊事務局長） それでは、私のほうから少し説明をいたします。

資料ナンバーの２をご覧いただきたいと思います。今、建設の委員長さんの委員会報告にもございましたが、伊那谷自治体会議の幹事会、まだ途中経過、意思決定の過程にある資料でございますが、参考までにご覧いただきたいと思います。

まずはじめに１枚おめくりいただきまして、３ページのＡ４の横長のほうの資料でございますが、プロジェクト展開のたたき台というふうでございますが、これは去る９月２日に開催されました伊那谷自治体会議で出された資料でございます。プロジェクト構成の案ということで、大きく①・②・③、３つの分野に分けまして、それぞれ具体的な案ということで伊那谷自治体会議では示されました。

まだまだそのアイディアフラッシュの段階ではございますが、真ん中を見ていただきますと、「定住・交流人口の増加」という部分では、幾つか書いてございますが、観光に関わる記述が非常に多ございまして、１つの流れとして観光について、これは山岳観光とかいろんな切り口はございますが、全体として何らかの形で取り組んでいこうという合意形成といいますか流れになっております。ほかの部分につきましては、まだまだアイディアフラッシュという状況でございます。

それを受けまして、去る１０月２４日に幹事会が開かれました。それが２ページの資料１でございます。

結論といたしましては、ここに書いてあることについては再度検討という形になっております。それは委員長の報告にもございましたけれども、３ページの資料をご覧いただきましても非常に多岐にわたっていろいろな事業が取り上げられております。２ページにつきましても、検討テーマということで１０の事業が掲げられておりますが、やはり、誰がどういうふうにやっていくのかということを確認にしていけないとなかなかさばききれないということもございまして、全体でやるもの、あるいは別々の広域でやるもの、あるいは個々の基礎自治体で行うもの、そこら辺をきちんと整理していく必要が

あるという意見が幹事の中から強く出されました。ということで、上段の方針の部分を含めまして再度検討という形になっております。

伊那谷自治体会議につきましては、年度内にもう1回程度は開きたいという県の意向もございます。また、新年度に向けてどうしていくということもございますので、また幹事会あるいは自治体会議での議論の状況を議会側にもお知らせしながら、またご意見をちょうだいしながら反映してまいりたいというふうに思っております。

ということで、意思決定過程にあります、まだ内部的な状況ということで本日はご承知置きを賜りたいと思います。

以上でございます。

(木下(克)議長) 説明が終わりました。

ご質疑はございませんか。よろしいですか。

(「なし」の声あり)

(木下(克)議長) なければ、本件について聞き置くことといたします。

(3) 新たな産業振興の拠点整備について

(木下(克)議長) (3)、次に「新たな産業振興の拠点整備について」を議題といたします。

理事者側の説明を求めます。

渡邊事務局長。

(渡邊事務局長) 資料ナンバーの3をご覧いただきたいと思います。

具体的な動き等につきましては、先ほど来、午前中の一般質問、あるいは補正予算のところで少しお話をしましたので現状の状況だけご報告をいたします。

資料3は、去る11月23日に長野市の信州大学工学部で開かれました信州大学の航空宇宙システム研究センターのテイクオフシンポジウムの資料でございます。

1枚お開きをいただきたいと思いますが、信州大学で次世代クラスター研究センターというようなことで、本年の10月ですか、その1つとして航空宇宙システム研究センターというものが発足いたしました。

そのシンポジウムの際の資料として配られたものでございますが、本日はお時間がありませんので詳細は触れませんが、ぜひ中を御一読いただきたいと思います。4月から私どものコンソーシアム・共同研究講座の核になっていただきます柳原先生のお言葉が、ちょうど見開きのところの4ページ目右側の中段に載っております。

それから、ここに大石さんとケルビンさんという信大工学部の4年生がお二人座談会に参画していただいておりますが、このお二人はその共同研究講座、来年度開設されましたら「ぜひ、そこで学びたい」という意思表示を今してくださっている方だそうでございます。既に学生さんの中にもそういう希望を持って、具体的にターゲットとしてお考えいただいている方々もいるということでご承知置きを賜りたいというふうに思います。

また、コンソーシアム等の動きにつきましては、年度末に向けまして具体的な動き等ございましたらご報告をしてみたいというふうに思っております。

以上でございます。

(木下(克)議長) 説明が終わりました。

質疑はございませんか。

(「なし」の声あり)

(木下(克)議長) なければ、本件については聞き置くことといたします。

(4) 南信州広域連合総合戦略について

(木下(克)議長) 次に「南信州広域連合総合戦略について」を議題といたします。

事務局の説明を求めます。

渡邊事務局長。

(渡邊事務局長) 地方創生に係ります自治体の総合戦略につきましては、それぞれの市町村におきましては27年度等で策定をされているということで承知をしております。広域連合におきましては、なかなか地域全体が関わるような、KPIの設定でありますとか難しい部分がございますので、状況に応じてということで考えてまいりました。

そういう中で先ほども少し触れさせていただきましたが、長野県が航空機システム研究等に係る実験の設備等を工業高校の・・・に、県として交付金事業として申請していきたいと。ついでには、広域連合との広域連携事業ということで申請をしていきたいというようなこともございまして、その関係上、広域連合としても戦略を整えておこうというものでございます。

広域連合といたしましては、29年度におきましては具体的にはコンソーシアムの負担金を交付金申請してみたいというふうに思っておりますが、具体的なところはまた新年度予算の中でお諮らいをしてみたいと思います。

1枚おめくりいただきたいと思いますが、そういう趣旨でございますので、総合戦略、

総合というよりはかなりピンポイント、目的的なものでございますがご理解を賜りたいと思います。

それから、2ページ目の一番下に計画期間というふうにございますが、これにつきましてはコンソーシアムの期間と合わせまして当面4年間というふうにしてあります。

おめくりいただきまして4ページ以降が人口ビジョンでございます。市町村で総合戦略つくるときにも人口ビジョン、このところが非常にボリュームを占めておられる部分でございますが、結論的に申し上げますと、広域連合といたしましては、14市町村の総合戦略の人口ビジョンの総和をもちまして広域連合の人口ビジョンとするということといたしました。その結果、6ページのところに書いてございますが、具体的には7ページの表をご覧いただきたいと思います。ここに構成市町村の人口ビジョンの概要ということで一覧が掲げてございます。一番下の計のところが広域連合の目標人口ということでございますので、人口ビジョンの一番下にございます14万7,143というのが2040年の広域連合としての目標人口という形で設定いたしました。

ということで、もう1枚おめくりいただきたいと思います。9ページのほうをご覧いただきたいと思いますが「基本的な目標及び具体的な施策」という部分でございますが、「新しい産業を興して、新たな人と情報の流れを創り、魅力ある就業の場づくりにつなげる」ということを1つ掲げながら、基本的な方向といたしましてはここにも書いてございますが、「有為な人財を募り、担い手の育成に努めていく」ということを方向として定めたものでございます。

具体的な施策と重要業績評価指数（KPI）でございますけれども、信州大学航空機システム共同研究講座のコンソーシアムに参画いたしまして、そこで中心的な役割を担って、その講座の運営を支援していくと。この講座は大学院相当、修士の資格が取れるという相当のものでございますので、この運営を中心的になって支援していきながら、先ほど来申し上げておりますように信大の大学院につなげていきたいという思いでございます。

それからもう1つ、その講座に地域内外から、ですから学生・研究者・共同研究企業等を募りまして、地域に新しい人の流れ、あるいは新しい情報発信の拠点を創っていききたいということでございます。

先にもう1枚、裏面をちょっとご覧いただきたいと思いますが、総合戦略には推進体制ということで有識者会議的なものを設置することになっております。これにつきましては、先日のコンソーシアムの役員会に諮りまして、コンソーシアムの役員がこの有識

者会議の委員を兼ねるといふことでご了解いただきました。まだちょっと具体的なお名前が入っていないので恐縮でございますが産学官金、信州大学・長野県・広域連合・産業センター・八十二銀行、飯田信金等々にこの推進体制有識者会議を構成していただくといふことでございます。

お戻りいただきまして、まさにコンソーシアムのメンバーがこれの進行管理をしていくといふことでございますので、ここの9ページの重要業績評価指数（KPI）につきましても先般のその会議で項目としてはご確認いただきました。1つは、その信大の講座で修士の学位を取得した学生数といふことで、目標値といたしまして平成32年までに10人。それから航空機システム共同研究講座における企業との共同研究の件数といふことで、これが一応4件といふふうに設定いたしました。それからもう1点、航空機システムの実験施設等の企業の利用、いふなれば有料の利用件数といふことでございますが、ここでは一応10件といふふうに想定してございますが、先般の委員会では「これはもう少し多くてもいいのではないか」・「ちょっと少なすぎる」といふようなご意見もいただいております、数字については改めて調整してまいりたいといふふうに思っております。

いずれにいたしましても、この3つの項目を具体的な目標に掲げまして運営していきたいといふものでございます。

これ以外の項目についてどうしていくのかといふことでございますが、先ほど来申し上げておりますように、市町村がそれぞれ総合戦略を掲げて施策の展開をしているものとの兼ね合いで、KPIの設定等、重複したりなかなか難しい部分がございます。ただ、今後の中でまた必要が生じてくればこの総合戦略を見直し、加筆修正等をしてまいりたいといふふうに思っております。

大きな流れといたしまして本日ご了解いただければ、こんな形で整えてまいりたいといふふうに思っております。

なお、先週県のほうで申請いたしましたものにつきまして、広域連合にもいふことででございましたけれども、それはここに掲げるものの一部といふことございまして、広域連合といたしまして29年度につきまして、先ほど申し上げたようにコンソーシアムの負担金が記載されているといふことでございます。

以上でございます。

(木下(克)議長) 説明が終わりました。

ご質疑はございませんか。

新井信一郎君。

(新井議員) 24番です。

ただ今ご説明いただいたこのKPIの中で、修士の学生さん10名という計画がありましたが、その前段におきましてこの信大の座談会ですか、その中にもおりました2名の方がということでありましたが、この方たち見ると京都の方であったり、留学生であったりとありました。当地域の子供たちといたしますか、そのような該当の皆さん方というのは、今のところいらっしゃらないのでしょうか。いかがでしょうか。

(木下(克)議長) 答弁を求めます。

渡邊事務局長。

(渡邊事務局長) 具体的な募集はこれからだというふうに思っておりますので、そんなふうにならぬようにご理解いただきたいと思っております。たまたま今、信大で学んでいる学生さんがそんな状況だということでございます。

(木下(克)議長) 新井信一郎君。

(新井議員) そうですね、まだ具体的なものは出ておりませんが、できましたら当地域のお子さんといいますか学んでいる方たちをぜひ誘致していただければ僕はうれしいなと思っております。

要望とさせていただきます。

(木下(克)議長) 要望でよろしいですか。

そのほかございませんか。

後藤荘一君。

(後藤議員) まさに航空宇宙産業に特化した南信州広域連合の総合戦略という印象を受けました。本当にこれでいいのかどうか疑問なんですけれども。お聞きしたいのはこのKPIを達成したら2040年がこの人口ビジョン、合計で14万7,000人をキープできるというこの総合戦略という位置づけでこれは計画したということではよろしいのでしょうか。

(木下(克)議長) 渡邊事務局長。

(渡邊事務局長) そういうことではございませんで、広域連合につきましては、先ほど午前中の一般質問でもいろいろ連合長もご答弁申し上げておりましたが、地域の全体の人口増やなんかをどうしていくかという中で、広域連合だけが行くということではございません。これは大きな方向を共有しながら、広域連合ですけれども14市町村がその方向に向かって一致協力してやっていこうということでありまして、この全体を実現して

いくのはもちろんこれだけではないということでございます。

ただ、先ほども申し上げておりますように、これは「総合」ということで字句をそのまま取ってというふうに言われれば、それはそうかもしれませんが、財源確保あるいは県との広域連携事業ということの性格上、こういうものも用意しておく必要があるということで設定したということをご理解いただければというふうに思うところがございます。

(木下(克)議長) よろしいですか。

(後藤議員) はい、わかりました。

(木下(克)議長) そのほかございませんか。よろしいですか。

(発言者なし)

(木下(克)議長) なければ、本件については聞き置くことといたします。

次に移ります。

(5) 南信州広域連合事務事業評価について

(木下(克)議長) 「南信州広域連合事務事業評価について」を議題といたします。

事務局の説明を求めます。

塚平事務局次長。

(塚平事務局次長) それでは、私から説明させていただきます。

資料ナンバーの5をご覧くださいと思います。

広域連合事務局及び環境センター、広域消防本部のこの目標設定／成果確認シート、5-1でございます。それから、5-2につきましては、28年度事業評価及び29年度事業計画という個表でございますけれども、この相互につきましては、広域連合規約及び広域連合の広域計画に定められた事業につきましては、5-1の部分につきましては年度当初より、5-2につきましては当初予算の編成に合わせて作成し、半期ごとに評価を行いながら円滑な事業実施に努めておる、そのための指標でございます。

5-1の目標設定／成果シートにつきましては、基本計画の施策名ごとに目標を定め、その年間計画に基づいて中間評価・進捗状況・年度末評価を行うという方式でございます。

5-2の事業評価及び事業計画につきましては、予算科目ごとに事業の名称において事業の目的・28年度の中間評価・課題・問題点を洗い出すとともに、次年度への事業概要・予算編成に向けた評価を行った上で来年度の予算編成につなげていくといった流

れで使用しているものでございます。

お時間の都合でございますので、本日は5-1、目標設定／成果確認シートの中間評価をもとに、主な事業についてご説明申し上げ、ご確認いただきたいと思っております。

なお、具体的なそれぞれの内容につきましては、検討委員会等でもご説明申し上げました。重複する部分があるかと思っておりますけれどもご承知置きいただきたいと思っております。

5-1の左端にございます基本計画の施策名ごとに主な事業を説明してまいります。まず調査研究プロジェクトの推進でございます。大学等の連携からマーケティング手法による地域戦略プロジェクト、観光交流の推進プロジェクトといった多くの項目についてプロジェクトを組んで取組を進めておるところでございますけれども、特に今年度につきましては昨年からの引き続きでございます2の民俗芸能保存継承プロジェクト。文化庁の支援を受けながら新野雪祭りの保存・継承・記録保存に取り組む事業を行っていること。さらに、3番のIT環境の整備利活用検討プロジェクトにおきまして、市町村・関係機関・団体によりまして、この地域のIT環境の整備現状をマップ化するとともに、広域計画でも目標といたしましたが、この地域をゾーニング化し、さらにIT環境の整備を進めるといった目標実現に向けた検討を進めておるところでございます。

4番のマーケティング手法による地域戦略構築プロジェクトにつきましては、後ほど具体的に説明させていただきます。

おめぐりいただきまして、6番のリニア中央新幹線開業に向けて望まれるインフラについて。これは産業振興の新しい拠点整備ということで補正予算等でご説明申し上げてまいりましたけれども、事業の円滑な進捗及び課題となっております財源の確保について、引き続き関係機関と連携して取り組んでまいりたいとしているものでございます。

合わせて、高等教育機関の設置につきましても、当地域の悲願であります信州大学の航空機システム研究講座を発展させた大学の誘致といったものにつなげていきたいというものでございます。

8番の広域連合の区域における広域行政の推進についての中で、在宅医療・介護連携推進事業の推進につきましても、後ほどこの半年の成果につきましてはご報告申し上げます。

下段の南信運輸免許センターの設置につきましては、去る議会におきまして一般質問等でもお答え申し上げました。旧飯田工業高校後利用に伴います産業センターの移転次第ではございますけれども、これまで広域連合会議・広域連合議会で確認されました事項を引き続き検討を進める中で、進捗を進めてまいりたいということでございます。

3 ページにいていただきまして、広域連合の区域の中の看護師等の人材確保対策の推進でございます。これも後ほど項目を切っておりますので、そちらで具体的に説明を申し上げますが、医師会から8月1日に要望書の提出を受け、これまで広域連合の部会、さらには広域連合会議で検討してまいりまして概要をまとめましたので、その内容について後ほど説明させていただきます。

おめくりいただきまして4 ページでございます。

介護認定・市町村審査・老人ホーム入所判定・相談支援事業でございますけれども、各審査会及び入所調整等の適正実施ということでございまして、それぞれの審査会・判定会とも、基本的に公平・公正かつ効率的に審査判定を実施するという命題のもとに、引き続き事業を行っていきたいと考えております。

また、4 ページ最下段の2 2 番でございますけれども、広域的な課題の調査研究ということで、ism-Link への取組につきましては、安全運用に向けてこの年度には関係団体による協議を行うという目標を立ててございますけれども、具体的課題の検討のために医師会関係者と広域連合による運営小委員会を設置し、具体的な協議を開始しております。先ほどの在宅医療・介護連携推進協議会の中でもこの協議を進めておるところでございます。

5 ページにまいりまして、次期ごみ処理施設の整備でございますけれども、これもこれまで説明してまいりました稲葉クリーンセンターの建設事業でございます。これまでの進捗状況今後の予定等につきましても、後ほど全員協議会の中でご説明申し上げたいと思います。

おめくりいただきまして6 ページからは、広域消防の目標設定／成果確認シートでございます。特に重点のみ申し上げます。6 ページの3 番、連携及び訓練ということで地域関係機関との連携強化についてでございますけれども、広域災害時の広域的な災害対応体制の検討ということで、今年度中にその骨子を固めたいとして検討が引き続き行われております。

7 ページの4 番でございますけれども、火災予防対策の推進といたしまして、住宅用火災警報器の設置推進を図るとするものでございまして、これまでに高齢単身世帯の訪問啓発を実施しながら事業を進めておるところでございます。広報等を使いながら引き続き設置推進に努めてまいるとするものでございます。

最下段6 番、応急手当普及啓発の推進でございます。救命講習の受講促進としまして、住民等への参加広報の実施等を行う中で、目標とする数値の達成を目指しているもので

ございます。

事業評価・事業計画等の個表については、また改めてご覧いただきたいと思います。
以上でございます。

(木下(克)議長) 説明が終わりました。

質疑はございませんか。よろしいですか。

(発言者なし)

(木下(克)議長) なければ、本件については聞き置くことといたします。

次に移ります。

(6) マーケティング研究会の報告について

(木下(克)議長) 「マーケティング研究会の報告について」を議題といたします。

事務局の説明を求めます。

塚平事務局次長。

(塚平事務局次長) マーケティング研究会の報告について、ご説明申し上げます。

資料ナンバーの6をご覧ください。お時間の関係もございますので、ポイントのみの説明とさせていただきます。最初にA3の1ページをご覧くださいと思います。

今年度の当初予算におきまして、マーケティング手法による地域戦略構築のための研究プロジェクトといたしまして、市町村の若手職員を対象とした研究会により、リニア時代を見通し、U I J ターンを促進・誘発する分野及びエリアの設定を想定することや、少量多品種の農産物を対象領域として、具体的に地域の資源を都市へどう売り込むかといった目的としてスタートしたものでございます。

この研究会は、構成市町村より選出をいただいた若手職員と事務局が一緒になって、月に1回の研究会をこれまで開催してまいりました。

資料の1ページをご覧くださいとおわかりのように、研究を進める中で当初の目的としては「地域の資源を生かして都市の課題を解決する」。これは「地域資源と都市の課題を掛け合わせて、新たな中心的価値を創造する」。つまり「4時間かけてでも来なくなる地域にするためには」という内容としたものでございます。

またさらに、最終的には「都市の持続性と地方の持続性は表裏一体である」との考えに基づき、「都市の課題と地方の課題を相互に解決する南信州」を基本コンセプトとして、4つの事業提案としてまとめたところでございます。

この事業提案は11月22日の連合会議におきまして、各市町村長様にプレゼンター

ションを行い、高い評価をいただいたと思っております。

この事業提案につきましてはさらに検討を重ね、可能なものについては、平成29年度から事業化に向けた予算化を目指していきたいと考えておりました。平成29年度第1回定例会におきましては、改めてその結果をご提案できますよう引き続き検討を進めてまいります。

2ページ以降につきましては、4つの事業提案を図に示したものでございます。

事業の概要を簡単に説明させていただきますと、2ページでございますけれども、「南信州版儲かる農業モデル」につきましては、地域資源を活用し、産業としての農業を再構築するとするものでございます。

3ページの「子どもたちの生きる力を育む地域」につきましては、都会と南信州の子どもが自然体験を通じて交流し、共に生きる力を育むための通学合宿を行いたいとするものでございます。

4ページの「自然を活かしたヒューマンセキュリティ研修」につきましては、都市部の企業を対象として、従業員の心身のバランスを整え、生きる力を取り戻すことで、経済の活性化及び交流が伴いますから交流による当地域へのさまざまな還元を図っていきたいとするもの。

5ページにつきましては、「一村一企業☆ダーチャ運動」と題しまして、ロシアで普及をしております郊外型住宅付農場のスタイルを活用し、各市町村がそれぞれの企業と協働し、当地域の資源を活用しながら、相互の発展から持続可能な地域を目指していくものというふうにまとめたものでございます。

細かい内容につきましては、説明する時間はございませんけれども、来年度の当初予算に向けた検討を引き続き重ねた上で、議員各位にはご提案申し上げたいというふうに考えております。参考とさせていただきますので、またこれを御一読いただいて事務局のほうにご意見をお寄せいただければと考えておりますのでよろしくお願いたします。

以上でございます。

(木下(克)議長) 説明が終わりました。

ご質疑はございますか。

(発言者なし)

(木下(克)議長) なければ、本件については聞き置くことといたします。

(7) 南信州在宅医療・介護連携推進協議会について

(木下(克)議長) 次に「南信州在宅医療・介護連携推進協議会について」を議題といたします。

事務局の説明を求めます。

塚平事務局次長。

(塚平事務局次長) 南信州在宅医療・介護連携推進協議会についてご説明申し上げます。資料ナンバーの7をご覧ください。

7-1と7-2に分かれてございます。7-1につきましては、事業ごとのこれまでの成果、今後の活動計画といったものを示してございまして、7-2につきましては、来年度この事業を実施するにあたって予算措置を伴うものを改めて掲載したものでございます。具体的な予算額につきましては現在検討を進めておりまして、第1回の定例会におきまして具体的な数値を皆様にご提案申し上げる予定としております。

それでは、説明をさせていただきます。

平成26年度の介護保険法の改正によりまして、在宅医療・介護連携推進事業が介護保険の地域支援事業に組み込まれたわけでございますけれども、在宅医療・介護連携推進事業には8つの事業項目が掲げられており、事業主体は市町村とされておりまして、平成29年度末までに8つの事業項目のすべてを、すべての市町村において取り組むこととされております。

医療・介護連携推進事業の事業項目には、市町村が単独で取り組むより広域的に取り組むべき内容が多いことから、広域連合の呼びかけによりまして今年4月25日に南信州在宅医療・介護連携推進協議会が発足したところでございます。この協議会では構成市町村・飯田医師会・飯田下伊那歯科医師会・飯田下伊那薬剤師会・飯伊包括医療協議会ほか、圏域の医療と介護に関わる主要な専門職団体・行政機関が参画し、在宅医療と介護との連携を促進するための具体策を協議する場と位置づけ、協議会の事務局は広域連合事務局が担っておるところでございます。

協議会には、理事会・幹事会及び3つの専門部会が設けられ、飯伊地域で在宅医療と介護の連携を推進する上で優先的・重点的に協議すべき課題について、主として専門部会及び専門部会の下に設けられましたワーキンググループにおいて具体策の検討を進めているところでございます。

また、協議会の中に飯田下伊那診療情報連携システム(ism-Link)の運営や実務的な課題の協議を行うための小委員会も設けられております。

協議会発足から10月までの部会及び小委員会での主な議論は次のとおりとなっております

ります。

広域版地域ケア会議部会、これは第1専門部会であります。兼ねて相談支援・普及啓発部会、これは第4専門部会でございますけれども、この2つの合同部会では、平成27年度に実施をされました看護職員確保のための実態調査結果を受けまして、看護職員確保及び介護職員確保のための対応策の検討、将来病床数が減少した場合に在宅での療養が困難と想定される世帯数の把握について、平成28年度の他職種のための研修会についてなどが協議されております。

在宅医療・介護連携強化検討部会、これは第2専門部会でございます。それと、在宅医療・介護連携情報システム検討部会、これは第3専門部会でございますが、この両専門部会では合同でワーキンググループを設置し、患者が病院から退院して在宅での療養に移行する際、病院と在宅での療養を支援する医療及び介護の専門職との連携を円滑に行うための情報共有のあり方等、飯伊地域での統一した退院時の調整ルールの設定を検討しているところでございます。

退院調整ルールに関しましては、病院の医療職・在宅での療養の支援を行う医療職と介護職との間で患者の基本情報を共有するための在宅患者基本情報共有書、「連携シート」という呼び方をしておりますけれども、統一書式の検討を行って試案を完成をさせたところでございます。

飯田下伊那診療情報連携システム運営小委員会では、ism-Linkの利活用の促進策、医療職・ケアマネージャーとの連携、運用に関する規程の見直し等について検討を進めております。

今後の取組でございますけれども、今年度中に飯伊圏域全体で北部・南部・西部・市部のブロックごとに他職種の専門職を対象とした研修を行って、退院調整ルールやism-Linkの利活用について説明し意見交換を行うこととしています。また、連携シート（在宅患者基本情報共有書）については、来年度に試行に入るための準備を進めてまいります。

来年度各部会で8つの事業項目について継続して検討を進めるほか、ism-Linkを紹介するホームページですとかパンフレットの作成なども予定しております。また、在宅療養に関する専門職の連携を促進する取組が具体的に試行の段階に入ってくることから、協議会の取組が専門職の間で理解され周知が進むよう、協議会に参加している関係団体と連携して専門職への働きかけを行いながら、在宅医療や在宅療養について住民の皆さんの理解を進めるための具体的な取組を今後の協議会での議論に合わせて検討していく

ことにしております。

以上でございます。

(木下(克)議長) 説明が終わりました。

ご質疑はございますか。よろしいですか。

(発言者なし)

(木下(克)議長) なければ、本件については聞き置くことといたします。

次に移ります。

(8) 看護師等確保対策について

(木下(克)議長) 「看護師等確保対策について」を議題といたします。

事務局の説明を求めます。

塚平事務局次長。

(塚平事務局次長) 資料ナンバーの8をご覧ください。

南信州圏域看護師等定着促進事業、これは修学資金制度でございますけれども、この概要についてまとまっている部分についてご説明申し上げます。

先ほどから説明等でお出ておりますけれども、8月1日に医師会から看護師確保対策の一環として、奨学金制度を広域連合で検討していただきたい旨の要望をいただき、広域連合の環境部会におきまして具体的な内容を検討し、去る22日の連合会議におきまして承認をいただき、本日ご報告申し上げるものでございます。

その概要でございます。資料をご覧くださいまして、1番の制度概要をご覧くださいと思います。

今回の奨学金制度で対象とする職種でございますけれども、看護師・准看護師・助産師・保健師の各職種でございます。貸与対象とする者につきましては、免許取得後に直ちに南信州圏域内の医療機関及び介護福祉関係機関において看護師等の業務に従事する意思を有する者としております。この中には、各構成市町村で保健師等として働きたいということで採用された方についても含むこととされております。

貸与人数額でございますけれども、毎年度新規貸与者を5名以内とし、区分につきましては新たに入学する方について3名以内、また、既に看護学校等に入学しているものの、年度中・年度切り替えにおいて新たにこの地域へ就職したいという考えを持たれて応募してきた学生さんにつきましても、2名以内をもって対象としたいと考えております。

貸与額につきましては、月額5万円としたいと思っております。したがって年額とすれば60万円ということになります。

貸与の期間につきましては、養成施設の正規の修業期間内としておりますし、償還期間につきましては、返還となる場合の事実が生じた日の翌月から、貸与を受けた期間に相当する期間を償還期間としたいと思っております。ただし、この制度につきましては、基本的に当地域に就職していただいて返還を免除するという部分が重要となっておりますので、直ちに返還免除対象施設において看護師等の業務に5年間従事していただけたときには全額を免除とするという内容としてございます。

下段のほうに行ってください、他制度との併用についてご確認くださいと思います。下から4つ目でございます。「他の修学資金制度との併用貸与を不可とする」としてございます。ただし、「市町村等行政の制度との併用は可とする」としてございまして、各構成市町村それぞれで奨学金制度をお持ちいただき運用を進めておっていただければと思います。その制度との併用は可としたいというふうに思っておりますので、当然のように修学後、この地域に戻って来ていただければ結構な制度でございますので、市町村等行政との制度との併用は可としてございます。

また、制度の運用期間といたしましては、当面10年を期間としたいと思っておりますが、広域連合といたしましても初めて行う制度でございますので、当初は3年で制度の評価を行って見直しを行っていきたいというふうに考えております。

おめぐりいただきますと、概算の事業費が出ております。これもあくまでも想定でございますけれども、看護系大学を想定すると4年ということになっておりますので、それが5名。最大限申し込みをいただいて許可した場合、60万円×5名ということになりますので300万円、それが4年間続くということになりますので、最大とすると10年間で1億2,000万という予算の範囲となっております。

そういった内容で当面進めさせていただくんですけども、現在のところまだ選考方法等の内容につきましてはこれから詰めることとしております。現在、決まっておりますのは以上の概要のみでございますので、今後、医師会等と協議しながら広域連合といたしましてもこの内容を詰めてまいりたいと思っております。来年度の第1回定例会における予算計上の際には、具体的な内容をさらにご説明申し上げたいと思っております。本日のところは、概要のみの報告とさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

以上でございます。

(木下(克)議長) 説明が終わりました。

ご質疑はございますか。

吉川秋利君。

(吉川議員) この2ページのところですね、1人に対しては4年間で1,200万。毎年これやっていくとすると、ちょっと違った金額になるのかと思いますが、いかがでしょうか。

(木下(克)議長) 塚平事務局次長。

(塚平事務局次長) この説明の内容がちょっと足りなくて申しわけございませんでした。

1名5万円の12ヶ月で60万円がお一人様ということになりまして、1年間に最大5名ということですので、60万円が5名とすると300万円が年間に必要になると思います。年間300万円ずつがかかっていくんですけども、看護系大学が最大4年ということですので、1年時から4年時の学生さんが重なっていると、3×4、1,200万が最大でかかることになります。

たまたまそれを10年間ということでは1億2,000万という計算をさせていただいておりますけれども、制度は10年間続くんですけども、最後の年度に貸与を決定した学生さんにつきましてはさらに4年間というふうになりますので、総額で見ますと1億2,000万という形になるという計算式でございます。

(木下(克)議長) よろしいですか。

ほかにはございませんか。

(発言者なし)

(木下(克)議長) なければ、本件について聞き置くことといたします。

次に移ります。

(9) 飯田環境センターの事業について

(木下(克)議長) 「飯田環境センターの事業について」を議題といたします。

事務局の説明を求めます。

田見飯田環境センター事務長。

(田見飯田環境センター事務長) それでは、飯田環境センターからお願いいたします。

資料9-1をご覧くださいと思います。稲葉クリーンセンターの現在の施工状況でございます。

ちょっと写真をご覧くださいと思いますが、工場棟につきましては、おおむね大型プラント機器の設置を完了いたしまして、現在、設置いたしました機器の連結

や仕上げ、あとダクト・配管・煙突につきましては鉄骨の建方を行っておるところでございます。プラットホーム・ごみピットにつきましては、外壁や床などの施工を行っておるところでございます。ランプウェイでございますけれども、これにつきましては表層工を残しまして完了しております。

管理棟につきましては、10月末より基礎工事に着工しております、10月より鉄骨の建方に入ってまいりたいというふうに考えております。

現在の進捗状況でございますが、11月末で約50%。特段の問題なく計画どおりに進んでおるところでございます。今後の進捗予定でございますが、12月末で60%、本年度末で約80%程度の出来形を予定しておるところでございます。

2ページ以降の図面につきましては、施工箇所を色塗りしてあるものでございますので、またご覧いただきたいというふうに思います。

続きまして、資料9-2をご覧いただきたいと思っております。

これは参考でございますが、稲葉クリーンセンターの視察に来ていただいた方々の状況でございます。平成27年は造成工事が主でございまして視察はございませんでしたが、28年に入りまして工場棟の建築工事等が始まりまして視察が入るようになりました。ご覧のような状況でございます。

視察対応につきましては、当施設の情報発信の1つと考えておまして、視察依頼があれば極力対応してまいりたいというふうに考えておりますのでまたよろしくお願いたします。

以上でございます。

(木下(克)議長) 説明が終わりました。

ご質疑はございませんか。よろしいですか。

(発言者なし)

(木下(克)議長) なければ、本件については聞き置くことといたします。

次に移ります。

(10) 飯田広域消防の事業について

(木下(克)議長) 「飯田広域消防の事業について」を議題といたします。

事務局の説明を求めます。

三石飯田広域消防次長。

(三石消防次長兼飯田消防署長) それでは、飯田広域消防からお願いいたします。

資料ナンバー10をご覧ください。最後の資料となります。

11月27日現在、昨年と比較した市町村別火災発生状況でございます。市町村別はご覧いただき、下の総合計をご覧くださいと存じます。中央にあります72件は先ほどあいさつでございましたとおり、昨年来年を1件上回る状況となります。この点、報告させていただきます。

昨年は合計78件でありましたので、それにはあと1ヶ月を残し6件という状況になってございます。ちなみに平成26年につきましては98、その前年の平成25年は120件でありましたことを申し添えさせていただきます。

また、この11月に入りまして柿の硫黄燻蒸によります火災が続いたこともございまして、関係する機関と連携いたしまして予防活動を実施いたしました。

おめくり願いたいと存じます。同じく11月27日現在の各種出動件数でございます。括弧は昨年との比較でございます。

火災につきましては、先ほどのとおりでございます。

中央の救急につきましては、6,439件はプラス173件という状況です。ちなみに平成27年は6,954、その前年の平成26年は7,107でございましたこと、このことについても申し添えさせていただきます。いずれもその内容等につきまして、この12月31日で締めます年統計という形で後日ご報告申し上げる予定でございます。

消防本部からは以上でございます。

(木下(克)議長) 説明が終わりました。

ご質疑はございませんか。よろしいですか。

(発言者なし)

(木下(克)議長) なければ、本件について聞き置くことといたします。

予定の案件はすべて終了いたしました。

そのほか何かございませんか。よろしいですか。

(発言者なし)

(木下(克)議長) 理事者側に何かございませんか。よろしいですか。

(発言者なし)

5. 閉 会

(木下(克)議長) ないようでございますので、以上をもちまして全員協議会を閉会といたします。長時間大変ご苦勞様でございました。

閉 会 午後 3 時 5 6 分